

資材流通

物流

モノの流れへの対応と合理化さらに

拠点は大型に事業は総合化進む

産業界の命題の一つに物流の合理化がある。時代とともに需要や流通の形態が変われば、物流や配送も変化するが常だからだ。特に昨今はトラックの運転手不足が社会問題化しており、テクノロジーによる解決、例えばドローンで荷物を運ぶ実証試験も真剣に取り組まれている。住宅資材の流通分野では、建築現場へのジャストインタイムの納材が標準的に求めら

れるようになり、中間業者の役割が大きくなっている。特に木材は構造材など重厚長大な品目が多いため、物流・配送の合理化の取り組みは経営戦略上重要な要素となる。

このため、商品のストック面は、大型物流拠点を使った総合的なシステムへ移行しており、取引先に代わって在庫管理や配送を行う3PL(サードパーティー・ロ

ジスティクス)事業を手掛ける企業も増加している。

業務や役割の多様化が進むなか、大型の物流センターでは一括管理による在庫管理能力の向上や業務時間の短縮化などを追求しており、顧客への対応力を拡充させている。物流拠点の設置では、高速IC近辺など好アクセス地への進出がさらに加速していく模様だ。

デポ活用や顧客連携で効率上げる

スカイ(静岡県磐田市、金澤和孝社長)は、豊岡・船明の2エリアでプレカット工場を運営し、一般住宅から大型の非住宅木造建築物まで広範囲の需要に対応している。2020年度の加工量は約9万坪を見込んでおり、このうち約20%を非住宅物件が占める。同社は設備投資を随時実施して生産効率を高めているが、物流や配送面に関して改革を進めており、全社的な生産管理システムと組み合わ

せて合理化を図っている。同社の物流拠点は、豊岡本社のほか関東エリアにデポを2カ所設けており、横持以外は運送業務の半分を同社社員が担当している。これは加工生産面と組

み合わせた配送計画を立案・実施するため、分納が多い建築現場に対応するには工程前後の情報とスキルを持った技術者が不可欠と考えている。顧客には終日の納品時間の設定など配慮を求め、適切な運送スケジュール管理でトラックの回転率を上げ、コストや手間の抑制につな

非住宅木造物件の増加などでプレカット工場から直接納品というパターンが増えたため、物流拠点の使い分けを重視している。CLTパネルや長尺の構造用集材など配送に一層の注意が必要で物件への対応のほか、納材前のトラック待機を回避するための各デポと連携した細かい配送などを実践し、効率化に向けた努力を続けている。例えば、

スカイ配送部には17人が在籍し、トラックを自社で12台、契約運送会社で基本8台を使用し現場への納材などで活躍している。運送業の免許も取得し、顧客に代わって在庫管理や配送を行う3PL事業も行っている。

今後は、中・長期計画のなかでドライバークの人材育成とトラックの増車に取り組んでいく方針だ。また、ユニット車を戦略的に活用し、「プレカット以外の物流を開拓していく必要がある」と考えている。(金澤社長)と話している。

変

変わる
変化するもの、
change



スカイ豊岡本社工場の製品ストックヤード